

実践報告

札幌市立中央小学校

(1) 研究内容

研究課題：「子どもの権利に関わる学習の研究」

- 人権の意義、内容や重要性について理解し、自分の大切さや他の人の大切さに気づき、人権を尊重しようとする態度を養う。

(2) 実践の内容

【実践①】札幌法務局 札幌人権擁護委員連合会「人権教室」について

○ ねらい

全学年・全学級で外部講師を招き人権授業をすることによって、発達段階に応じた人権意識の涵養をねらう。本校では毎年実施しており、人権に対する意識や行動しようとする態度を継続的に養うことをねらいとしている。(今年度は北海道胆振東部地震のため低学年未実施)

○ 学習内容

・第4学年

「相手を理解する（相手はどう感じるだろう?）」

資料「わたしのせいじゃない」から、クラスで泣いている男の子の気持ちを一人一人が考え、交流する活動を通して、相手の気持ちを思いやる態度と心情を養う。

・第5学年

「相手はどう思うだろう、人権意識の向上を目指して」

グループワーク【新しい大陸に向けた航海】

新しい国づくりに必要なことは何かと考える課題から、新しい国に必要なものを優先的に考える活動を通して、人権の意識を養う。

・第6学年

「人権意識の向上を目指して」

グループワーク【ダイヤモンド・ランキング】

生活に関わる事柄から、日常生活に必要なことは何か、優先順位を考える活動を行う。他者の意見を尊重しながら、自分の考えも伝え、認め合い、互いに折り合いをつけていくことを学習の過程で学んでいく。



第5学年で使用したワークシート

【実践②】第6学年 社会科「世界の未来と日本の役割」について

○ ねらい

ユニセフの活動が子どもの権利と深く結び付いていることを理解し、自分たちは世界の諸課題に対してどのようにしていったらよいかを考えることをねらいとしている。



○ 学習内容

児童が調べたユニセフの取組について「何のため？」と問うことで、活動の目的を焦点化する。「子どもの権利を守るため」という目的から、子どもの権利とユニセフの取組との関連を考えていく。授業終盤では、国連が採択した持続可能な開発目標の視点からも子どもの権利を守ることはできるか、自分たちには何ができるのかを考えていく。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- 毎年実施している人権出前授業は、発達の段階に応じた指導に生かすことができている。
- 高学年の授業では、思考ツールの一つであるダイヤモンド・ランキングを取り入れたことで、児童が主体的に活動することができた。
- 第6学年の社会科の実践では、他の教科や道徳科との関連を図り実施時期を調整するなど、単元を横断して取り扱うことで、人権に対する意識をより高めることができた。
- 公開授業の研究討議では、小学校・中学校の先生方に子どもの権利を扱う授業づくりについてたくさんの御意見をいただくことができた。

② 課題

- カリキュラム・マネジメントの視点から、各教科等との関連や実施時期についてもより綿密な計画を立てる必要がある。
- 子どもの権利に関する公開授業では、世界で行われている支援と自分たちの生活との関わりを自分ごととして捉えさせることに難しさがあった。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 各学年の各教科・領域と関連させて、教科横断的な視点で教育課程に位置付けるなど指導の効果を高める工夫を図ることが不可欠である。